

令和4年度第1回恵那市総合教育会議議事録

日 時 令和4年8月25日(木) 午後1時30分～

場 所 恵那市役所 西庁舎 4A会議室

会議次第 1. 市長、教育長あいさつ

2. 議題

「恵那市内の小中学校のいじめ・不登校の現状と取組み」

(1) 「いじめ」について

(2) 「不登校」について

出席構成員：恵那市長

(6名)

教育長

教育委員

小坂 喬峰

岡田 庄二

西尾 修欣

樋田 千史

村松 訓子

事務局：

副教育長

教育委員会事務局長

教育委員会事務局次長兼

教育総務課長

学校教育課長

学校教育係長

学校教育課指導主事

西尾 朋子

長谷川 幸洋

佐々木 和美

丸山 頼彦

加藤 陽子

山本 晋平

開会(午後1時30分)

事務局次長兼教育総務課長

ただいまから令和4年度第1回総合教育会議を開催いたします。

本日の総合教育会議は、設置要項第5条に基づきまして会議を公開し、第6条に基づきまして議事録も公表されますので、よろしく願いいたします。

1 市長、教育長あいさつ

事務局次長兼教育総務課長

初めに小坂市長よりご挨拶申し上げます。

恵那市長 皆さん、改めましてこんにちは。大変お忙しい中、お集まりを頂きましてありがとうございます。

また、日頃から恵那市の教育行政全般に関しまして様々なお立場でご意見、またご理解とご協力とご指導を頂きまして本当にありがとうございます。心から感謝申し上げます。

本日は、第1回目となりました総合教育会議でございます。今日の議題は「いじめ」と「不登校」ということでございます。初めに少しだけご報告を申し上げようと思います。

一つ、市として環境整備というのが何よりも大事だろうということで、今まで取り組んできた内容は、皆様よくご存知のとおりでございます。まずエアコンにつきましても、豊田市で熱中症のお子様が亡くなるということが全国的にテレビで取り上げられまして、それを受ける形で文科省が緊急の補助メニューを用意してくれたということでございました。

恵那市としましては、これを受けて早速全校全て取り組もうということで、こども園、それから小学校、中学校全ての学校でのエアコンの取り付けを、令和元年度までに全て完了したということでございます。

それから、2年度に入りますと、今度は新型コロナが中国から世界中に広がる状況がございまして、これと時を同じくして、恵那市はタブレットの配布を何とかやっていきたいということを考えておりましたところに、まさにコロナが襲ってきたということでございました。この事業は2年度からスタートしまして、なるべく早期にということで、11月くらいには配り終えたと理解しております。それから、引き続いて取り組んだのは、トイレを何とか洋式化できないか、これには一つ、避難所としての学校の活用もありますけれども、何よりも子供たちの気が休まる、気兼ねなく利用できるような安心できる学校づくりの一つとして、やはりトイレが必要なんじゃないかということで、洋式化、そして乾式といった取組を、令和2年度、3年度、そして4年度で、ほぼ全てのこども園、小学校、中学校への修繕が終わる予定です。このように環境については随分とレベルアップをしてきたのではないかと考えております。

今年度、私どもは地域懇談会ということで、各13地域を回らせていただいておりますが、終了後には、各地域のこども園を見せていただいております。1年を通じてこども園を見に行く機会というのはほとんどないので、改めて見て傷んでいるところがないか、修繕する必要はないか、それから、園としてお困りのことはないか、いろいろお話を伺っています。

そんな中で、修繕としてできることはすぐにやろうということで、既に9月補正にも幾つかの予算を出させていただきました。新年度に向けて大きなものは設計費用や増改築費用についてお願いし、取り組みたいと考えております。こういった整備を進めて、少しでも子供たちが安心して学校に来られる、もしくは学校での生活ができると、こんなことを目指しているところでございます。

何よりも、安らげる場所である学校づくりが大事だと思っておりますけれども、そんな中で、ICTの話をしただけ申し上げると、GIGAスクールをはじめとして、タブレットを子供たちにお配りした中で、私が一番期待しているのは、ICTのうちのCの部分です。いわゆるコミュニティー、コミュニケーションのところなんです。授業を遠隔で学べるとか、機械でいろいろなものが出来るとか、これ

は当然道具としての使い方です。最近だと話題になるのは、LINEで子供たちのいじめがあったとか、SNSで何か中傷を受けたとかいうことがあります。私自身は、それよりもはるかにいいことのほうがたくさんあったと思っています。要するに、いじめられたことはあった、発覚したのは1個かもしれないけれど、その裏で、LINEがあったから子供たちの気が休まったとか、助かったとか、友達にいいプラスになったということが10件でも20件でもあるのではないかなと感じているわけです。

これはどういうことかという、子供たちのコミュニティーというのは、私たちが子供の頃は学校しかありませんでしたので、学校でいじめられるとか、学校で否定されるということは、その行き場がないわけですけど、新しいコミュニティーのスクールができることで、例えば趣味を同じくする子とか、遠く離れていても波長が合うとか、そんなことをコミュニティーの中で自分の場所ができるというのも、これは大事だろうと個人的には思っています。

ネット好きという方々のコミュニティーというのも多少は理解しているつもりで、そんな中では、いじめ以上にプラスの要素もたくさんあるのではないかと少し感じていると、今日は報告を申し上げたいと思います。

今日の議題では、ぜひ皆様からいろいろな学びをしたいと思っております。どうぞ最後まで活発にご意見を賜りますようによろしく願いいたします。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

続いて、岡田教育長、ご挨拶お願いいたします。

教育長 本日は市長さんをお招きして総合教育会議ということですがけれども、新教育委員会制度になっての目玉といいますか、大きな改善、発展したという一つがこの会議だと思っております。日頃から市長さんにはいろいろな面で教育に対してご指導やアドバイスを頂いております。給食費とかも含めてですがけれども、環境が整ってきていますし、他市と比べると、本当に一歩先を進んでいることが多いと思っております。

また、今日は「いじめ」と「不登校」ということで、非常に重いものではありませんけれども、現場の様子等を知っていただいて、市長さんの視点から教えていただければ、またそれに向かって教育委員会としても進んでいきたいと思っておりますので、ぜひいろいろと教えていただければと思っております。今日はよろしく願いします。

2 議題

(1) 「いじめ」について

(2) 「不登校」について

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

本日は、議題としては「いじめ」と「不登校」ということをございます。それでは、資料別紙、恵那市内の小中学校のいじめ・不登校の現状と取組というものからご説明いたします。

学校教育課指導主事

(1)「いじめ」について、資料に基づいて説明。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

ご意見はありますでしょうか。

委員 いじめというのは、やはりどんな社会でも起こり得ることだと思います。社会というのが、大きなものでいえば職場であるし、小さなものでいえば家庭でも一つの社会なわけであって、家庭の中でのいじめというものも少なくはない。今の世の中、その社会の中での自分以外の人との付き合いをどうしていくかということで、いじめという現象が起こり得る、あるいは起こらないのであるということと思っています。今回、我々は学校教育の場ということでこの問題を取り上げているわけですが、学校におけるいじめというものは、個々のいじめの認識というものがまだまだ醸成されていない、小さな子供がいる可能性が多いものです。いじめに対する対処の仕方もちろん大切ですが、それが起こらないような教育、人間形成、人との付き合いの仕方というような意味の教育というものも、当然大切であろうというようなことを、まずは申し上げておきたいと思います。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

委員 前も聞いたことがあったと思いますが、定期的に各学校で調査していますか。

副教育長 今は頻繁に実施しています。

委員 いじめの状態をアンケートでとったあと、心の相談員さんとかが立ち会って、部屋へ呼んで話を聞くとか、そういうこともやって早く解決していると思います。そのことは、教育委員会へ件数を全部報告することで、教育委員会はこのデータのように把握していると思います。でも減りはしていない。根が深いし、それぞれまた違ういじめもあるので、一概に解決策は無いと思います。先ほど市長さん言われたようにコミュニケーション、これをどう取っていくか、先生と生徒、それから先生同士、あるいは家族同士でどう取っていくかということだと思います。どういう言葉かけをするか。それが大事だと思いますし、そういうことを学校が通信等で伝えるとか、あるいは職員間の中で話題にするとか、何か手を打つ必要があると思います。

先ほど言われたように、未解決の案件もありますよね。私が校長のときに件数を発表したことがあります。百数十件報告のあった学校がありました。それを東濃教育事務所に報告したら、すぐお叱りの電話がありました。それは多過ぎるとの事で、理由を聞かれたのですが、その時は細かい事まで全部出したわけです。

よつとした言葉でも、ちょっとした態度でも、やっぱり嫌なことはしないことが大事だと思います。道徳教育は大事とは思いますが、他にも要因があると考えます。環境問題かもしれないし、発育問題もあるかもしれません、いろいろなことが考えられると思いますが、言いたいことはやはり会話。とにかく家族の中で会話ができる場、そういったことを大事にする必要があると思います。以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。学校現場ではどうでしょうか。

学校教育課指導主事

いじめの数を多く出せば出すほど、その学校のアンテナの高さだと言われて、今は多く出せば出すほどしっかりといじめを見守っている学校だという捉えにもなっています。

また、数が少ないところについては、アンケートの中に入れていても、見逃さないように、とにかく見落としがないというところに力点を置いて、数の多い、少ないというのは当然ありますが、一番は見落としがないようにというところを研修等で、学校へお伝えしているのが現状です。

それから、会話といったところにつきましては、児童生徒とそれから担任や学校職員とのコミュニケーションですが、タブレットで「心のお天気アプリ」「スクールライフノート」等によって子供との会話が増えたといったような職員のアンケート結果も随分上がってきています。そういったアイテムとして活用させていただいているというのは大きいかと思っております。

委員 今、裁判にかかるようないじめはありますか。

学校教育課指導主事 恵那市にはありません。

委員 保護者間でもありませんか。

学校教育課指導主事

何か大きく学校と保護者のトラブルがあって、裁判沙汰になるとかそういった案件はありません。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。次の委員をお願いします。

委員 私は学校で相談員をしていますが、言葉として、自分はそんなつもりで言ったのではなくても、受けたほうに対してすごく嫌なことであったりすれば、それだけでいじめになるというのが、子供、児童生徒は分かっていないと思います。人の痛みが分かるということが、まだ少し足りないのかと思います。

SNS上での言った、言わないとか、誰かがこんなことを悪く言ってきたとか、心のアンケートを見せてもらうと、そういう声もたくさんあります。心のお天気アプリで、いつもにこにこして元気がいいのに、いつも心の中では雨が降っている子もいたりして、毎日、どこかできっと気づいてほしい、見てほしいというシグナルを送っているのではないかと感じています。アンケートだったり、心のアプリだったり、どこかに発信できる場をたくさん、今の子ども達は頂いているの

で、少し発見しやすいと感じています。

誰々に嫌なことを言われたとか、誰々が無視するとか、誰々の顔色をいつも気にしているような子がよく相談に来たりしますが、いじめというのは、これから解決していかなくちゃいけないことですが、大人になってもなくなりません。社会に出ても多かれ少なかれ嫌な思いをしながら生きていかなければいけないので「人の顔色ばかりうかがっているようなそんな生活は楽しくないから、もう少し孤独を楽しめる強さを身につけていこう。そこが全ての世界じゃないから、もっと楽しいことは他にもあるから、他に目を向けてね。」というような話をしながら、自分の気持ちの持ち方を少し転換していくような話をしています。以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

副教育長 いじめのことというのは未然防止と、それから早期発見、早期対応と、言わばそここのところで重点をどことするのか。恵那市でいうと、未然防止というところに入力を入れているということが言えると思っています。

先ほど委員の皆様もおっしゃられましたが、いわゆる小さいときから中学生になるまでに、コミュニケーションの取り方といったものをきちんと教えて、ソーシャルスキルだと思いますが、そういったものを教えていくということが非常に大事なことだと思います。

どうしてうまくいかないのだろうとか、どうしてあの子とあの子は自分が言ったことについていじめになったのだろうとなったときに、言葉のかけ方のこととか、けんかになってしまったとか、本当に多くの事例がある中で、地道なことかもしれないけれども、その子が考える、そういった対応とかコミュニケーションの仕方、話をゆっくり聞く、聞いてやるということや、心の相談員さん、担任もそうですし、それ以外でも、多くの積み重ねをしていく中で、いわゆるコミュニケーションというのは醸成されていくのではないかと考えています。

恵那市は、いじめが起こったときの早期対応ももちろん大事だけれども、道徳教育や人権教育も含めた未然防止の部分というところに重点を置いていくことが大事だと考えております。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

委員の皆様、ほかにご意見ございませんか。

委員 いじめはあるという認識を持っていることが大切だろうと思います。早期解決というものは、当然やっていかなくちゃいけない。しかし、少しでも表面化しない、あるいは表面化する前の段階で相手を思いやるということは大切だろうと思います。

今、副教育長さんが言われましたソーシャルスキル、まさしくそうだと思うのです。学校現場だけじゃないです。どんな人の集団の中でもソーシャルスキルとい

うのは大切なわけであって、いじめはあるものだという認識の下で、いかに目をつむっていかかということが、別に結論づけるわけでもありませんけれども、そういう認識を持つことが大切だろうとそんなことを思いました。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。それでは、いじめ問題についてご意見ございませんか。市長さん、今の皆さんの話を聞いて何か一言お願いします。

恵那市長

ありがとうございます。感想ですが一つは、SNS上のいじめです。昔は電話だとけんかにならないけれど、電子メールだとけんかになるということがよくあります。要するに、文字にすると結構とがって聞こえる。そういうことに若い子たちは敏感で、言葉遣いにすごく気を遣っています。私たち以上に、言葉一つ、書き方一つ、褒め方や指摘の仕方ということについても、皆さんすごく気を遣っている。それは、いじめられないためのスキルです。そういうのを見ていると、子供たちもなかなか大変だと、時々思ったりもしています。いじめに関していうと、ICTの話をしましたけど、SNS上でいろいろなやり取りがされていたというのが事件になりますけど、実はよく技術を知っている方にとってみると、SNSでのやり取りのほうみんなに見えているということに気づいていないです。何が言いたいかという、一つは起きた事案、それから、何がどういうことがあったかというのは、徹底的に公開すべきだと思います。公開することが、その本人や父兄やいろいろな方々にとって、もしかしたら不利益かもしれないけど、結局、考えるきっかけになるし抑止になると思っています。

個人を特定するようなことはしなくてもいいと思いますけど、ありとあらゆる情報や受けられたご相談は、発信していいと思います。

そういう中で、子供たちも、地域の方々もみんなで考えていくことが何よりも大切に感じています。

それから、発達障害を含めて子供たちの精神の不安定については、多くの事を研究されていて、ある程度症状がパターン化されていく中で、対処法というのも確立されてきています。いじめに関しても、これから先、こういう事案はこう対処するとよいと、パターン化されたものに関して、対処法が確立されてくれば、皆さんが共有すべきで、それが早期の発見や早期の対処につながるのではないかと、皆さんの話を聞きながら感じていました。

以上でございます。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

それでは、続いての議題としまして、不登校問題の現状ということで、同じように学校教育課の担当の者から説明し、ご意見を頂きたいと思えます。

学校教育係長 「不登校」について、資料に基づいて説明。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今のことについて発言のほうお願いしたいと思いま

す。いかがでしょうか。

委員 家庭訪問の事例ということで2点、紹介を頂きました。長期的に粘り強く担当されている先生は大変だと思いますけれども、もっと何かいい方法があれば、それも取り組めばいいと思います。しかし、こういう方法も地道にやっていただけるといいと思いました。

不登校とひきこもりというのはイコールではないですよ。全く第三者的な面で見れば、不登校、いわゆる学校には行ってない、しかし、どこかで集まっているというような、そんな形の不登校もあるだろうし、例にあるように家に引きこもった不登校もあると思います。家に引きこもった状態の不登校というのは、まだ、手が差し伸べやすいかなとは思いますが、しかし、どこかで集まっているような不登校の事例があるとすれば、今度これは社会的な問題になってきますから、もう教育委員会の範疇を超えて、もっと広い対応が必要にもなってくるだろうと思いました。

いずれにしろ、教育委員会としての手の差し伸べ方を考えていくべきだろうと感じました。

以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。今ありましたように、どこかに集まる不登校みたいな、そんなような事例は聞いていますか。

学校教育係長

把握はしておりません。委員さんが言われたようなケースも少し前の時代等にはあったと推測します。今、時代の流れでネットとか、そういったもので引きこもるというパターンが結構多く、私ども家庭訪問というところに目を向けたのが、その一つでございます。やはり家から出ないというところで、コミュニケーションをそもそも取る必要がなくなっていると感じていることが大きいと感じています。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。次の委員、お願いします。

委員 不登校は、家庭生活に起因するというきっかけが多いと感じます。学校の中でのトラブルとすれば、解決することができるかもしれませんが、その子の環境は変えてあげられないし、本人にも変えることができない。例えば衣替えの時期になり、制服が小さくなっているけど、その準備ができていない、洗い替えのTシャツがない、そういったことの積み重ねで本人は学校に足が向かなくなってしまう。また、家庭内で両親が離婚してしまい、母子家庭になり、母親が夜の間中いない、急に再婚されて赤ちゃんができて、自分の居場所がなくなってしまったとか、家庭内での原因が多くて、話を聞いてあげることだけしかできないと思います。

市のほうで派遣しているスクールカウンセラーが、月に2回ほど学校へ来てく

ださっていますが、1時間自分の身の周りのことを聞いてもらうだけで、すっきりしたとか、次に会ったときに少し環境が変わって、いいほうに向いてよかったとか、その子の話を聞いてあげるといことは、ただ話を聞くだけしかできませんが、すごく大事だと思います。スクールカウンセラーはプロなので、心が少しでも軽くなるよう助言してくださるので、「この日に先生が来るからおいで。」という、生徒も時間を決めて来てくれたりします。

最初の一步ですが、いろいろな大人が自分の気持ちを吐き出せる場所をつくってあげる、それが一番かと思います。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

不登校の全体的な要因としましては、どんなことが多いですか。

学校教育係長

学校生活のいろいろな原因が、行きたくないと思うきっかけになります。そこが継続してしまう理由としては、家庭の問題や、そこから無気力になり、行きたくなくなるなど、そういった傾向が多いです。今、委員さんが言われたとおり、家庭環境というすごく大きな課題として捉えています。

子供の支援としましては、心の相談員やスクールカウンセラーさんを利用して相談を実施していただき、教育委員会ができることとしましては、家庭支援という部分で市の専門員や専門の部署につなぎ、そこで家庭の支援や母親の支援ということをやっていると考えております。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

市としましても、いろいろな部署で協力し合いながらまたこういった問題を解決していかないということでございます。

次の委員、お願いいたします。

委員

私も不登校の子を持ったことがあります、その子が3年生のときに、先生とのトラブルで宿題を全然やってこなかったので、「今日宿題をやってこないと明日の分も増えるよ」と、伝えている中で、どんどん増えて、追いつかないようになってしまい、不登校になってしまいました。

私は、その子を何年間か後に担任しましたが、不登校だったので、毎朝家へよっても最初は出てきてくれず、本当に会えませんでした。お母さんも心配してみえて、「また先生みえたよ。学校行くよ。」と言って、そんなことの繰り返しで、とうとう卒業になってしまいました。そしたらその前に保健室なら行けるようになったので、保健室で勉強をしていました。1人仲のいい男の子が近所にいて、友達がいつもついていてくれて、友達がいると活動ができました。卒業式も何とか最後出てきてくれました。

もう一人は、転校してきて学校になじめず、お母さんも心配して、毎朝送ってきていましたが車から降りられなく、僕が窓を開けて「おはよう。よく来たね。」

と言って、毎朝そんなことをやっていたら順番に降りられるようになってきました。少しずつ少しずつ繰り返して行って登校できるようになりましたが、そういう例はまれで、ほとんどは休んでしまいます。

心配なのは高校入試です。勉強すればよいですが、今みたいにタブレットで勉強するのもないですし、家庭教師も多分やらない。どこの高校へ行くかとか、親はそこを心配してしまうと思います。

勉強ができて、できなくても不登校のうちは気にならないです。ほかにやりたいことがいっぱいある。昔の話ですが、教室の中に全然入ってこない子がいました。その子は友達に聞くと、コケが大好きだから裏山に行っている。ということでした。コケばかり見つけて、先生も「コケ見つけたか」、そういう言葉がけをして、その子は大学へ行って世界の有名コケ博士になった例があります。

何か一つきっかけみたいなものがあればいいです。それをどうやって発見するかが大変難しいですが、不登校の子であっても不登校でない子でも将来があります。そこをどうやって方向を示してあげるか、きっかけづくりをするか。教育関係の中でいろいろな経験を踏まえながら、その子に合ったものがあればいいかと思っています。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

委員の発言に対して、教育長さん何かお考えでしょうか。

教育長 私も教員だったのでいろいろな例を見てきました。時代とともにいろいろな見方が変わってきていて、例えば私たち若い頃は、学校は来るところ、行かなければならないところ、だから何とかして連れてこようとする。そういう時代があったと思います。今は、学校も一つの選択だけど、どうしてもという形ではない指導や働きかけに変わってきていると思っています。

そういう切替えができるかどうかとか、保護者の中には行ってほしい。そういうところも含めて時代の変化とともにいろいろ考えていかなければならないと思いました。

今お話を聞いていて強く思うのは、本人へのケアも大事ですが、保護者へのケアもすごく大切だと思ふことがあります。保護者が安定してくると、子供も安定はしてきます。

県でも不登校は非常に大きな話題になっています。その中で、学ぶ場をつくってあげるのは大事だと思いました。適応教室もですけど、岐阜にある草潤中学校という学校です。不登校での対応を全面的に行っています。この学校は、特別な例なので、教育委員会としては、できるだけ居場所を幾つかつくってあげられるといいかと思っています。

どういうきっかけでエネルギーが出て、行けるようになるか分からないですけど、一緒に考えていくことは大切かと思っています。

私たちもアンテナを高くしていろいろな実践を聞いて、できることを恵那市な

りにアレンジしてやっていくことは大切かなと聞いていました。以上です。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

委員の皆さん、ほかに何かご意見ございませんでしょうか。

委員 自分もいろいろな学校を訪問させてもらって、どこの学校でどの校長先生の話だったか覚えてないですけども、「行きたい学校、変えたい家庭」という標語を自分は思っています。ということ saying していた校長先生がいました。子供にとっての居場所というのは、確かに学校と家庭、そして地域というのが基本の基本だとは思いますが、どこも欠けることのないようなのが理想です。その子供の居場所づくりというのが、今日の資料にもありましたけど、大切であり、そのために教育現場、学校の教室の環境、それから家庭環境、地域の環境というもので、多くの要因はあると思います。そういったことも心がけながら子供を見守っていくことは必要だろうと思いました。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

いろいろなご意見を頂きました。そういったご意見を受けながら教育委員会としても今後いじめ問題、不登校問題など子供たちを見守っていきたくて思っております。よろしく願いいたします。

そのほかよろしかったでしょうか。ほかの意見でもよろしいですけども、何か別意見でも構いませんので、ご意見をお願いします。

委員 市長さんがフィンランドへ行かれたことを新聞でみました。あちらの国では不登校とか、そんな話はありませんでしょうか。

恵那市長 フィンランドの報告を申し上げますと、行ったきっかけはWRCでしたけれど、フィンランドのユバスキュラという町はすごく歴史があるので行ってまいりました。

気候が、ここら辺が30度を超えて湿度80%ぐらいのときに、あちらの国は、18度から20度ぐらいで湿度も非常に低い状態で、北海道の秋のイメージ、北海道の白樺並木とか草が生えていないような状況のところですよ。

税率は24%、消費税、非常に高いです。その代わりに大学まで子供たちは全員教育費無料です。給食も無料、医療費も全て無料という町でした。労働生産性は非常に高く、1人当たりのGDPは日本が大体4万ドルと言われてはいますが、フィンランドは4万8,000ドルで、はるかに日本よりも生産性も高いですし、教育水準も高い。サービス業が7割を占めてはいて、特にIT系のサービス業が非常に多いところですよ。子育て環境はほぼ無料で、公園があらゆるところでできていて、子供たちはマイナス20度でも外に出て遊ぶぐらい子育ては充実していました。

ただ、子供への投資があまり必要ない分、住宅は大変高いです。公営住宅ですらヘルシンキは首都ですけど月に10万近い、700ユーロとかが公営住宅らし

くて、一般のマンションとかになると、その倍か3倍でした。

また、印象的だったのは、ヘルシンキの市立図書館というのが、デザイン的にはかなり凝って木でできたようなところで、図書館とは言うものの、あらゆる学びの場が一つにまとめてありました。例えばミシン、3Dプリンター、音楽、料理、自主学习、映像コンテンツ、あらゆるものが、この場所で学べるようになっていました。実は「写真撮るな」と書いてあり、発達障害の方や社会的な弱者の方が職業訓練をして社会に戻っていくための施設でもあるようなところでした。非常に新しい形での図書館の在り方の一つだと思って見せていただいたりしました。

福祉、特に北欧ですから社会的には高い税金だけでも、幸せが得られるという、そういう国づくりをしていらっしゃるようなところだったので、そういう意味で非常に勉強になりました。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

最後に市長さん、もう一言よろしく願いいたします。

恵那市長 本日は本当に貴重なご意見を皆様頂きましてありがとうございました。

いじめの話と不登校の話ということでございました。そのきっかけとなるのは、ささいなことかもしれないけれど、今日改めて皆様のお話を聞きまして、2年半続いているコロナの話などは、非常に子供にとっては大きいことだと、改めてそういう気がしました。

また、気候による変化とか気圧による変化も、人に影響を及ぼしているかと思っ
ていまして、子供たちは、大人よりもっと敏感でしょうから、目に見えない形で
いろいろなストレスがかかっているだろうなと思います。

そういう中でも先ほどから報告があったように、先生方は一生懸命現場を守っ
てくれていただいているようで、改めて感謝したいなと思います。

「諦める」ということは絶対あってはいけない。SDGsには誰一人取り残さない
というキーワードがあります。まさに日本とか、こういう恵那みたいな地域、
小さな町の中で、子供たちが不幸にも「こうなっちゃったけど仕方がないよね。」
という、こんな結論には、絶対しないようにあらゆる手を尽くして一人でも子供
を、一人になってでも守っていく。そういう意味では市としての責務というのは、
学校現場では支えきれないかもしれないけれど、福祉では、重層的な取り組みとし
て、あらゆるセーフティーネットを駆使して最後の最後まで守っていくという
ことを改めてやらないといけないなと思っています。

まだまだ施策的には、市の施策としては足りない部分があると思いますので、あ
とから添えていただきながら、実現に向けて取り組んでまいりたいと思います。
本当に今日はありがとうございました。

事務局次長兼教育総務課長

ありがとうございました。

これもちまして、令和4年度第1回総合教育会議を閉じさせていただきます。